

は じ め に

今や「人生100年時代」という言葉を当たり前のように耳にするようになりました。平均寿命が延び、健康寿命の延伸が求められる中で、健康で充実した人生を送るために、私たちがどのように健康を維持し、延ばしていくかが重要な課題です。健康寿命を延ばすことは、単に病気を防ぐだけでなく、より活力に満ちた、充実した人生を送るための鍵となります。

本市では、この課題に対して、総合的かつ積極的な取り組みを行っています。『第6次碧南市総合計画』において掲げた「健康・医療」の基本施策に基づき、①生活習慣病の予防とライフステージに合わせた健康づくり、②地域全体で進める健康づくり、③安定した市民病院の経営基盤の確立、④市民病院における入院環境の整備、⑤新たな感染症への対策の5つの柱を立て、全市民が健康でいきいきとした生涯を過ごせるよう、さまざまな施策を推進しています。

さらに、健康寿命の延伸を目指して策定された『へきなん健康づくり21プラン（第二次）』が計画満了を迎え、令和7年3月に『第3次へきなん健康づくり21プラン』を策定いたしました。本プランは、「生涯健やかでいきいきと過ごせるまち碧南市」を基本理念に掲げ、「健康寿命の延伸」を目標に、健康増進を推進することとしています。とりわけ、「生活習慣病の発症予防と重症化予防」「生活習慣の見直し」「ライフステージに合わせた市民主体の健康づくり」「地域全体で進める健康づくり」の4つを基本項目とし「碧南市健康を守る会」を中心として、医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護師会、保健所をはじめとする関係機関と市民が一体となって推進しています。この連携によって、着実に健康増進が図られており、市民の皆さまの協力が本市の保健事業の実現において重要な役割を果たしています。

最後に、関係機関との密な連携・協力により本市の保健事業が継続できましたことに感謝申し上げますとともに、本誌を今後の保健事業の参考として活用いただき、皆さまの健康づくりへの一助となれば幸いと存じます。

令和7年9月

碧南市長
小池友妃子

緒 言

ここに第43号、令和6年度保健センター年報を発刊するにあたり、センター職員の皆さんと各種業務に関わるすべての職種の皆さんに厚く感謝申し上げます。私事ですが平成16年度より碧南市健康を守る会の会長を拝命し早20年が経過し、この緒言も20年間投稿してきました。執筆するにあたり自分なりにその年度に問題となったことや健康・福祉などに大きく関わる事象があればそれを取り上げてきたつもりです。

さて現在わが国において深刻な社会問題の一つが少子高齢化です。これまではどちらかと言えば高齢者対策に重点が置かれてきたように思います。近年急速に進む少子化対策に国も本腰を入れたようで、こども家庭庁なるものを立ち上げ種々施策を練っていますが、時すでに遅しの感は否めません。碧南市における人口もこの10年程前からすると漸減しており、減少速度を遅くしているのは海外からの移住者の増加があるからにほかなりません。

そこで当市における毎年の出生数に目を向けてみるとともに毎年の死亡者数も調べてみました。当センター開設間もない昭和60年には出生数889人でその年の総死亡者数は381人でした。平成10年の年間出生数と死亡者数は693人と473人、20年は782人と560人でした。それが平成30年には555人と729人となり、総死亡者数が出生数を上回っています。さらに令和5年では出生数454人に対し総死亡者数が852人とその差はかなり広がっています。出生数の減少は生産年齢人口の減少にも関連し、総死亡者数との乖離は今後も徐々に拡大することが予想され、市の人口減少は生産年齢人口減少とも相まって財政問題にも多大な影響が出るものと推察されます。そこで私たち保健・医療・福祉に関わるものに出来ることは出生後生涯を通じて健全な生活を送ることが出来るよう助力すること。すなわち乳児から幼児の疾病予防や健診による疾病の早期発見ばかりではなく一次予防として疾病に罹患しないような生活を送ること。また青年期から壮年期の疾病予防と罹患した場合の早期の適切な対応、さらに高齢者では健康寿命の延伸により、より高齢になっても働くことができる体づくりなどが考えられます。

昭和63年度から全国に先駆けて実施している生活習慣病若年化対策においても事後指導がより重要であり、その方法や対策などについて年2回のワーキング委員会で討論しています。また、数十年前から当市においては糖尿病予備軍を含

む糖尿病人口やメタボリック症候群の罹患率が他の周辺市より高い特徴が分っており、センターにおいても平成20年度から始まった特定健診における事後の動機付け支援や積極的支援には力を入れています。しかし、その効果は今ひとつ明らかではありません。糖尿病やメタボの人はより悪性腫瘍（がん）の罹患率が高くなることが以前から知られています。当市における疾病による死亡率を見ますと、悪性新生物による年間死亡者数は平成元年96人であったのが10年は142人、20年は165人、30年は193人、令和5年には198人でした。これを人口10万人対比の率にすると県の率を上回る年が多い傾向を示しました。また、心疾患や脳血管疾患による10万人対比の死亡率は過去からずっと県の率より高い状態が続っており、今後一層の対策が必要だと痛感する次第です。今後とも関係各位のご理解ご協力をお願い申し上げます

令和7年9月

碧南市健康を守る会 会長 山中 寛紀